

令和3年度
「魅力ある学校づくり地域協議会」
活動事例集



第7号 令和4年2月

宇都宮市教育委員会 生涯学習課

目 次

◎活動事例集について	1
◎魅力ある学校づくり地域協議会ってなに？	2
◎活動事例	3
横川中央小学校地域協議会	4
雀宮東小学校地域協議会	5
陽西中学校地域協議会	6
城東小学校地域協議会	7
陽南小学校地域協議会	8
鬼怒中学校地域協議会	9
旭中学校地域協議会	10
泉が丘小学校地域協議会	11
城山中学校地域協議会	12
城山西小学校地域協議会	13

活動事例集について

本市の「魅力ある学校づくり地域協議会」は、国の「コミュニティ・スクール」の学校運営参画機能の一部を有し、保護者や地域住民が学校の課題や取組に対する意見交換を行うとともに、学校運営に反映するための協議を行う機能を備えています。

この機能に加え、本市の魅力ある学校づくり地域協議会では、その話合いの結果を受けて、協議会が自らの実践的な活動に結び付ける機能を併せ持っています。具体的には、国の「地域学校協働本部」の機能を取り入れ、地域の教育力を生かした学校教育の充実に向けた活動を実践するものであり、学校教育を支援することを通して子どもの育ちを地域ぐるみで支えることを目的としています。また、携わる地域の大人も、大人同士のネットワークが形成され、結果として家庭・地域の教育力の向上に結びつきます。

更に、本市独自の機能として、家庭・地域の教育力向上に向け、研修会やフォーラムなどを通して、地域の大人が当事者意識を持ち自らも地域の子どもの育てる一員であることを自覚し、地域の子どもの育ちについて考え、地域ぐるみの子育てに参画するよう、家庭・地域に直接的に働きかける活動も実践する機能を併せ持っています。

国は、「地域学校協働本部」が〈①コーディネート機能、②多様な活動、③継続的な活動〉の3要素を備えていることが重要であるとしています。本市の魅力ある学校づくり地域協議会は、地域学校協働活動推進員を中心としたコーディネート機能を備え、多様な地域団体等の協力を得ながら、学校支援活動に留まらず、児童生徒の健全育成・安全確保活動や家庭・地域の教育力向上に係る活動など、多様かつ継続的な活動を実施してきました。これは、本市が、全国に誇れるものとなっています。

平成27年度に第1号目を発行しました「魅力ある学校づくり地域協議会活動事例集」は、本号が第7号目となります。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が続き、協議会としても、活動の実施可否や活動の際の感染症拡大防止策を検討しつつも、児童生徒のために何ができるか、試行錯誤いただく日々だったかと思います。今後も、地域の実情に応じて、安全に配慮しながら活動を継続いただくことが重要となりますが、それぞれの協議会において実践されている特色ある取組事例を、全ての協議会で共有し、各協議会が抱えている課題解決の一助とするため、継続して発行していきたいと考えております。

本書が、それぞれの地域における「魅力ある学校づくり地域協議会」のより良い活動につながり、地域全体で子どもを育む「地域の教育力」のさらなる向上にむけた参考となれば幸いです。

魅力ある学校づくり地域協議会ってなに？

「学校や子どもたちのために何かしたい」という思いを持った組織です！

学校とPTA、自治会などの地域団体、地域の企業などが一体となって地域の子どもの心豊かにたくましく育むため、共に考え、協力し、地域ぐるみで子育てに取り組んでいます。
宇都宮市内のすべての市立小・中学校区ごとに設立されており、学校を拠点にして、それぞれの地域の特性を活かした活動をしています。



【事業全体に関する問合せ】

宇都宮市教育委員会事務局 生涯学習課
TEL:028-632-2679
Mail:u4606@city.utsunomiya.tochigi.jp

宇都宮市 魅力ある学校づくり地域協議会 検索

HPはこちらからも！



活動事例

定期的に集まる学習支援ボランティアの活動

- 年度初めに、「読み聞かせボランティア」、「プチボランティア」、「学習支援ボランティア」を募集しています。
- 「読み聞かせボランティア」は、保護者だけではなく、地域の方にも登録していただいています。
- 「プチボランティア」は、授業の指導補助や行事の準備補助など、突発的なボランティアの活動が必要になったときに、臨時で集まるボランティアです。
- 「学習支援ボランティア」は、活動の年間スケジュールが決まっています。定期的に集まり、各学年に分かれて活動します。先生方は、学習支援ボランティアの活動日までに、授業の準備や資料作成、学習プリントの印刷、表示・装飾物の作成など、その時期にお願いしたいことを各学年の学習支援ボランティアファイルに記入しておきます。そのファイルを基に、地域学校協働活動推進員が学習支援ボランティア活動の計画を立てます。当日は、活動前に、先生方からボランティアへ作業内容について詳しく説明していただきます。
- 今回は、児童のタブレットの保護シート貼りや、低学年のタッチペンの名前貼り、朝学習に使用するプリントの印刷、図書の本の修繕などの活動をしました。自分の学年の活動が終わったら、他の学年の活動に加わり、時間いっぱい協力しながら活動していました。



先生がお願いを記入します



学年で保護シート貼り



みんなで本の修繕

【学校の声】

学習支援ボランティアの方々の定期的な活動により、支援をお願いできる機会があることはたいへんありがたいです。

地域協議会の委員の皆様には、学校とは違う視点で子どもたちを見守っていただき、学校が知らない実情を教えていただいております。

子どもたちには、地域の人たちの思いや地域の人たちに見守られていることを伝える機会をつくっていきたいと思います。

【地域協議会の声】

これからも、学習支援ボランティアやプチボランティアなどの活動により、先生方の授業や子どもたちの活動を支えられるようにしていきたいです。

子どもたちには、地域の多くの人と関わりをもって育ててほしいので、地域の人との関わりが希薄にならないように、地域の力をお借りしながら、引き続き地域と学校をつなげていきたいです。

【いいね！】

学習支援ボランティアの活動のスケジュールが決まっているので、先生方も、お願いしたいことを計画的にボランティアファイルに記入することができます。

また、各学年のボランティアファイルは、そのまま活動記録となり、次年度の活動にも活かされるようになっていきます。



「のみどり隊」による稲刈り活動

- 地域協議会の委員も参加する「のみどり隊」が、子どもたちの自然体験活動（稲作活動）のサポートをしてくれています。
- この日は、10月とは思えないほどの暑さの中、子どもたちが育てたもち米の稲刈りのため、「のみどり隊」のメンバーをはじめ、PTAの学年部及び執行部の方々など、沢山の方が集まりました。
- 雀宮東小の稲作活動は、大変長く（50年くらい?!）続く活動で、以前はPTAが主体となり活動をしていましたが、10年ほど前に「のみどり隊」が発足し、サポート活動の中心となりました。
- 子どもたちは、毎年、種からお米を育てます。種を植えて苗になり、田植えをし、草取りをして、稲刈りまで、「のみどり隊」のサポートを受けながらずっと関わっていきます。
- こうして大切に育て収穫したもち米は、1月の行事「どんと焼き」の際には「まゆ玉」となり、無病息災・五穀豊穡を祈ります。また、お赤飯やおこわとして給食でも出され、みんなでおいしくいただきます。（この日の給食は、去年収穫したもち米が入った「舞茸ご飯」でした!）その他、例年であれば、保護者や地域の方に、PTAのバザーなどで販売もしているそうです。
- 毎年継続して行っている活動なので、子どもたちも年々上達し、高学年ともなると、さすが、稲刈りの手つきも慣れたものです。
- 新型コロナの影響で、例年通りの活動が難しい中でも、地域・保護者・学校が一体となって、子どもたちの成長を見守っています。



鎌を使って上手に稲刈り



収穫したお米を脱穀します



レトロで素敵な脱穀機

【学校の声】

「のみどり隊」を始めとした地域の皆様やPTAが主体となって、子どもたちの体験活動等をサポートしていただけるので、大変ありがたく思っています。昨年は、学校休業などがあり、稲刈りしかできませんでしたが、今年は種まきから体験することができ、よかったです。

まだまだ、例年通りとはいかない状況ですが、今後も、皆様にご協力いただきながら、子どもたちが、より充実した学校生活が送れるよう、頑張りたいと思います。

【のみどり隊の声】

「のみどり隊」では、PTAとともに稲作体験のサポートを継続してきました。自分たちで種から育てたお米は格別で、子どもたちの食いつきが違います。自分の食べる物に興味を持つこと、「食育」にも役立っていると感じます。

交通安全の見守りや学習支援など、新型コロナの影響で思うように実施できていないものもありますが、工夫しながら活動していきたいです。

【いいね!】

多くの方が子どもたちのサポートのため集まり、素晴らしいチームワークで手際よく活動されていて、日頃からの繋がり**の強さを感じました。**

稲作活動を行う学校は他にもありますが、種まきや草取りまで行う学校は少ないのではないのでしょうか。それも、地域や保護者の方たちの厚い支援の賜物ですね。



勉強を頑張る中学生を応援！ 「学習サポート」

- 陽西中では、自習する生徒の質問などに対応する「学習サポート」を平成29年度から続けています。
- 学校と地域協議会が連携し、水曜日放課後や土曜日などに、図書室などに学習できる場所を用意し、生徒たちは宿題や問題集を持参して勉強しています。問題につまずいたときや、答えを見ても「どうしてそうなるのか」が分からないときに、すぐそばにいる学習支援員に質問ができ、勉強への苦手意識も解消できます。
- 学習支援員としては、同校の講師や別の学校の先生、大学生が参加しており、数学を中心に生徒の勉強を見ています。支援員の皆さんに話を聞くと、「継続していくと、生徒と目を合わせてやりとりができるようになり、生徒が勉強できるようになっていくのが分かるので、嬉しいです」「担任とは違う形で、生徒や学校に貢献できるのがやりがいです」「生徒それぞれの将来のためにも、この取り組みが続けられていることが大切だと思います」とのことでした。
- この取材をした日は土曜日であり、7人の生徒が参加していました。生徒たちは、「ここに来ればいつでも質問できると知っているのも、安心して今日も参加しました」「いつもと違う環境に来るのも、気分転換になって集中できます」と話していました。
- 地域協議会の役割は、学習サポートの準備等です。この日は、地域学校協働活動推進員の3人が学習後の消毒を行い、手分けをして効率的に作業していました。
- 地域・学校・家庭が協力し、生徒を応援する形ができています。



パーテーションの設置など感染症対策をして開催



分からない所はマンツーマンで聞くことができます



消毒液の散布、拭き取り、乾拭きをサクサク作業

【学校の声】

学習サポートの取組みは、学習の習慣づけや学力の底上げにつながるもので、有り難く感じています。

地域やPTAの皆さんのご支援をいただいて行事などを実施するのですが、子どもたちのパワーの発露が見られると嬉しくなります。

学校も地域協議会も、今の子どもたちの笑顔や、次年度以降の子どもたちの体験につながるように、活動を途切れさせないよう頑張っています。

【地域協議会の声】

これまで続けてきた結果、先生や子どもたちと顔見知りになり、笑顔であいさつし合う関係になれました。

活動がない状態に慣れてしまわないよう、同時に、忙しい方への押しつけとならないよう、地域やPTAとの繋がりも活用し、今後も学校や子どもたちのために活動を楽しくコーディネートしていきます。

【いいね！】

地域と学校が協力して、自主学習の場を子どもたちに提供しています。

子どもたちに関わる大人がそれぞれ、「できること」・「子どもたちの今や将来のためになること」を真剣に考えて、さまざまな活動を実現しています。



「わくわくブック隊」による全学級への朝の読み聞かせ

- この日は、コロナの影響により7月に実施して以来の久しぶりの読み聞かせでした。ブック隊の皆さんも「ドキドキしちゃうね」と緊張気味でしたが、いざ始まると、さすがのテクニックであっという間に子どもたちを「本の世界」に引き込んでいました。
- 現在、「わくわくブック隊」は保護者や地域の方17名で構成されています。皆さん、一冊の本を選ぶにあたっては、学年の発達段階に配慮しながら、様々な想いや願いを込めていることがわかりました。いくつか紹介させていただくと…

対象学年	本の名前	本を通して伝えたい想いや願い、メッセージ
3年生	いぬのサビシー	愛されること、愛することの大切さ
4年生	かわをゆく	SDGsについて考えるきっかけに
5年生	あしたのねこ	信じれば幸せな明日はやってくるよ

- 各学級への読み聞かせが終わると、ブック隊の皆さんは図書室に戻ってきて、今日読んだ本を丁寧に紹介し合います。その時間はまさに「良質なオトナの生涯学習」。子どもたちへの愛情、そして本に対する愛情が溢れていました。必ず、城東小の子どもたちにその想いは伝わり、一人一人の心が育まれていくことでしょう。

図書室での事前打ち合わせ



本の世界を味わう子どもたち



本日のセレクト本



【学校の声】

現在は感染予防対策として、読み手と子どもたちが通常より距離をとって読み聞かせを実施しています。そのような中、遠くからでも見やすい本や、音や言葉を楽しめる本など、本の内容はもちろん環境にもきめ細やかに配慮し活動に臨んでくださっています。本を通して、ブック隊の皆さんの心の温かさに触れることのできる読み聞かせは、子ども達が地域に見守られていることを実感できる時間です。いつもありがとうございます。

【地域協議会の声】

特に高学年で実施するときは、どの本を選んだらよいか迷うこともありますが、子どもたちからの反応が少しでも感じられたり、クスッと笑ってくれたりすると、嬉しくなります。本を介してのコミュニケーションがより充実したものになるよう、いずれは、放課後に地域コミセン等で読み聞かせが開催できればいいなと思っています。

【いいね!】

ブック隊の活動者全員から「本を通して子どもたちに伝えたいこと」の思いが感じられ、全学級、優しい雰囲気の中で読み聞かせが実施されていました。早くコロナが終息し、地域のオトナと子どもたちが本を通して心を交流する、このような素晴らしい機会が多く実施されることを願います。



地域の魅力を再発見！「陽南てくてくウォーク」

- 雲一つない青空が広がる11月20日、土曜日に「陽南てくてくウォーク」が開催されました。てくてくウォークは、陽南小の地域協議会が8年前から行っているイベントです。陽南地区とその周辺にある名所旧跡や施設を探訪し、地域への愛着をさらに深めることを目的としています。
- ウォーキングのコースは5コースあり、毎年参加しても楽しめるように工夫されています。昨年は、地域協議会で出た意見を反映し、カンセキスタジアムをまわる新コースができました。
- 今年は、陽南小学校の発祥の地である、陽南第2公園を出発し、宇都宮高校、鶴田駅周辺を経由して陽南小学校に戻るというコースでした。当日は、講師を務める地域の方と、参加する親子、地域の方、約50名が、クイズラリーをしながらコースを回りました。
- 地域協議会の会長や委員などで事前に下見を行い、安全に通ることのできる道を探したり、クイズラリーの問題を考えたりしていました。当日と同じ曜日、同じ時間帯に下見をすることで、当日のイメージがつきやすくなります。
- ウォーキング中は、安全に気をつけながら、ゆっくり5kmほどのコースを歩きます。今回は、宇都宮高校の教頭先生が講師として、宇都宮高校の歴史についてもお話くださいました。
- 陽南小学校に戻ってきた後は、クイズラリーの答え合わせを行って活動を締めくくります。活動の初めから終わりまで、子どもたちの楽しそうな声と親子の笑顔があふれ、楽しい交流の時間となりました。



学年ごとに並んで出発！



地域の方々が安全を見守ってくれています。



最後にクイズの答え合わせ！

【学校の声】

児童の中には、毎年参加して、コースを全部制覇する子もいました。普段何気なく通り過ぎている道も、ゆっくり歩くと新しい発見があり、地域の方々からこれまでの歴史や地理について話を聞くことで、子どもたちにも受け継がれていくと思います。地域の方が見守ってくださるので、安全にウォークラリーを行うことができ、とてもありがたいです。

【地域協議会の声】

てくてくウォークは、1年生から6年生まで参加できるので、クイズが簡単すぎたり、難しすぎたりしないように、レベルを調整しています。

コロナ禍のなかでも、何かできることはないかと考え、冬には、親子工作教室を行う予定です。今後も、親子と一緒に参加できるような活動を計画して、実施していきたいと思っています。

【いいね！】

子どもたちが、お父さん、お母さんと手をつないで楽しそうに話しながら歩く姿がとても印象的でした。てくてくウォークが、親子の会話のきっかけになっており、家族の時間を作ることにもつながっていると思います。今後も、てくてくウォークが続いて、いつか講師として戻ってきてくれる日が待ち遠しいです。



見守り・緑化・清掃 活動盛りだくさん！

- 鬼怒中学校地域協議会での3つの活動を紹介します。
- 登下校時には、見守り活動を実施しています。登校時には先生たちが校門などで生徒を迎え、下校時にはPTAと地域の人が見送ります。夕方には多くの生徒が自転車で一斉に帰るので、車と接触しないよう、地域協議会のベストを着てまちかどに立っています。
- 緑化活動として、夏には熱中症に注意しつつ、除草作業を行いました。さらに、自然や季節の移り変わりを生徒たちに感じてほしいと考え、10月には、学校敷地内の土手の一角にあじさいの苗を植えました。
- 地域を清掃する「ピカピカクリーン大会」は、過去には国土交通大臣表彰を受けたこともある活動です。学校やPTA、地域協議会などが連携し、毎年秋に開催しています。参加した生徒に感想を聞くと、「ごみが多かったので、拾うのも拾った後の分別も、集中して取り組みました」「改めて、地域の一員であること、地域に貢献することを考えられました」などと話していました。
- 地域ぐるみで生徒たちの未来を考えて活動し、生徒たちが地域に出て実践する、そんな流れとつながりができています。

見守り



信号のない横断箇所を誘導

緑化



炎天下の除草、寒くなる前の植樹。活動でも季節を感じます。

清掃



地域の大人はオレンジのベストや青いたすきを着けました。



全校3学年17クラスが地域を分担。予想以上に色々なごみが落ちていました。



終了後にはパソコンで感想等を提出。すでに当たり前のようになっています。

【学校の声】

鬼怒中には、御幸・御幸が原・平石の広範囲から生徒が集まっており、交通量の多い道路もあるところ、多くの方が関わってくださることで、安全安心な教育環境を整えられています。

今後も、学校とPTAと地域協議会とが連携して、生徒たちにたくさんの良い学びの機会を提供していきたいです。

【地域協議会の声】

中学生は、地域の運動会での会場準備や放送解説を担ってくれるなど、地域においても大変頼りになる存在です。

地域協議会としては、子どもたちの体験経験を増やせるような活動を継続していくとともに、工業団地の企業とのコラボなど、積極的に企画していきたいです。

【いいね！】

学校行事やPTAなどと連携し、子どもたちが地域や地域貢献について考えるきっかけを作っています。

中学校を核として多様な関係者が集まり、活動の輪を広げ、子どもたちの健全育成に取り組んでいます。



生徒と地域が学校の未来を考える「地域未来会議」

- 旭中学校で行われている「地域未来会議」は、昨年度始まった新しい活動です。旭中学校の生徒会と地域協議会が、「旭中学校をより良くするためにどうするか」について一緒に考え、実践を通して、学校全体の活動の幅を広げていくことを目的としています。昨年、地域の方から提案いただいた「お年寄りへの手紙」については、訪問して手渡すなどの実践につながりました。
- この日は、生徒会の生徒が地域の方と意見交換を行いました。この意見交換を参考に、生徒会が新しい取組を検討し、実践を行います。来年の未来会議において実践を振り返り、また新たな目標を設定します。
- 今回の未来会議のテーマは、「旭中でのSDGsをより充実させるためには」です。旭中学校では、スカートとスラックスを誰もが選択できるように男女共通の制服を作ったり、悩みの相談先に関する案内をトイレのドアに掲示したりと、以前からSDGsに取り組んでいますが、地域で行っている取組を聞くことを通して、新しくどのようなSDGsの取組が行えるのかを考えます。
- 話し合いでは、地域協議会の方がコロナ禍になる前に行ってた活動について聞いたり、学校での生活を一緒に振り返ってSDGsに取り組めることがないか意見を出し合ったりしました。
- 最後には、各グループで出た意見を発表しました。「行事のときにバザーを行い、リサイクルを行う」、「緑のカーテンを設置する」、「SDGsの取組に参加してもらうために、もっと多くの人にSDGsについて知ってもらう」など、幅広い意見が出ました。今後、旭中でどのような取組が行われるのか楽しみです。



生徒会からの説明



地域の方たちとの話し合い



各グループからの発表

【学校の声】

生徒からはなかなか出ないようなアイデアを地域の方からいただき、生徒にとって、とても刺激になっています。生徒からも、「地域の方と話せてよかった。」、「いろんな意見を聞くことができて参考になった。」などの感想が聞かれます。子どもたちが、地域の方々と直接話し合いをする機会はなかなかないので、地域の方がこうして来てくださってありがたいです。

【地域協議会の声】

コロナ禍ということもあり、地域協議会に所属する方の人数も少なくなりましたが、その分、意見が言いやすく、風通しの良い環境づくりを大切にしています。子どもが卒業しても、学校に来ることができ、子どもたちが元気に挨拶してくれることが嬉しいです。旭中学校の未来会議は、新しい取組ですが、今後も継続して行っていけるといいと思っています。

【いいね！】

未来会議を通して、地域の方々には学校の様子を生徒から直接聞くことができ、生徒は、学校生活の中に地域の方々の意見を反映することができます。SDGsという共通のテーマがあることで、生徒と地域がよりよい学校づくり、地域づくりについて一緒に考えることができる機会となっています。



小中一貫合同清掃美化活動

- 毎年、6年生と泉が丘中学校の1年生が協力して活動する「小中一貫合同清掃」を実施しています。昨年度はコロナの影響で中止となりましたが、今年度は、例年通り中学校と連携した交流活動を実施することができました。
- 泉が丘中学校を中心とした地域学校園全体で取り組んでいる活動であり、地域内の環境美化を図るとともに、奉仕の心を養い、地域の一員としての自覚を高めることを目的とした、小中一貫教育の活動となっています。
- 活動するのは子どもたちだけではなく、協議会の委員や保護者の方々も参加し、一緒に地域の美化活動に取り組みます。ボランティアを集う活動があるときは、各地域団体の代表である協議会委員の方々が、その情報を各地域で呼びかけていただいています。
- 初めに、校庭に集合し、小学生と中学生合わせて10人ほどのグループになって顔合せをしました。小学生は少し緊張気味でしたが、中学生がやさしくリードしてくれました。
- その後、子どもたちの通学路であり地域の人たちの憩いの場となっている「越戸川せせらぎ通り」へ行き、ゴミ拾いや落ち葉集めなどの清掃活動を行いました。中学生はグループのメンバーに進んで声をかけ、みんなが協力し合いながら積極的に清掃活動に取り組んでいました。
- 終わる頃には、集めた葉っぱを詰め込んだ大きな袋がたくさんでき、通り道や広場は、すっきりとしてきれいになっていました。



活動前にお互い自己紹介



地域の方も一緒に清掃



葉っぱの袋がいっぱいです

【学校の声】

「小中一貫合同清掃」は、中学生との交流も目的の一つである大切な地域活動であり、長い間継続して取り組んできました。

今回のような活動を通して、子どもたちの地域を愛する心や、思いやりの心を育てていきたいです。

これからも、学校の情報を積極的に地域に公開し、地域と連携して子どもたちのための活動を考えていき、地域の方々と触れ合う活動を大事にしていきたいです。

【地域協議会の声】

今回、2年ぶりに実施することができ、小学生と中学生が協力しながら地域を清掃する姿を見て、とてもうれしく感じました。

今後も、学校としっかり連携をとって、地域と学校のつながりを強くしていくとともに、地域の人たちと交流する活動を大切にし、子どもたちの地域とのつながりも強くしていきたいと思っています。

【いいね!】

身近な地域について考え、地域への愛着を深める活動であり、地域の人たちのために協力して活動し、地域の役に立てたという達成感を味わうことができたと思います。

6年生は今年の実験を生かして、来年は上級生として活動に取り組み、次の代につなげていく活動となっています。



安全安心の「自転車のまち」に向けた「交通安全標語看板の設置」

- 城山中学校地域協議会は、城山地区がジャパンカップの競技会場ともなる「自転車のまち」であることから、令和2年度に「自転車に関する交通安全標語の看板」を作成・設置しました。
- 交通安全標語は、城山中学校の全生徒から募集し、学校・地域協議会の方々に選定をしました。コロナ禍により、集まっての選定は難しかったため、郵送にて投票を行いました。生徒が考えた標語はどれも素晴らしく、選ぶのが大変でしたが、最終的に最優秀賞1作品・優秀賞15作品となりました。
- 作成した看板は、ジャパンカップと宇都宮ブリッツェン、「Bicycle Town In Shiroyama」のロゴマークが入り、目を引くデザインとなりました。また、看板の設置に当たっては、通行上の見通しの悪い場所などに設置することとし、地域協議会の方々が自ら、自治会や地権者の方と相談・交渉をしました。
- また、中学校の1階の旧玄関のスペースには「地域協議会コーナー」があり、心豊かな感性を養うことを目的とし、地域の方の作品が展示されていて、地域協議会の活動報告も掲示されています。コーナーの入り口には、ブリッツェンからお借りしている、実際のレースで使用された競技用自転車も展示されています。
- 地域で力を合わせて作った看板や、自転車に関する展示を目的とする中で、交通安全に対する意識が一層高まると同時に、安全安心な「自転車のまち」づくりにもつながっています。城山地区ならではの、地域の特性を生かした活動に意欲的に取り組んでいます。



校門前に設置してある看板



選手が使用していた自転車



城山中地域協議会コーナー

【学校の声】

本校地域協議会は、令和2年度の看板設置、令和3年度からの地域未来塾運営など、地域に根ざした活力ある学校づくりに貢献していただき、胸を張って他に自慢できる協議会で、心より感謝しております。日本遺産である大谷石文化、多氣山や古賀志山などの自然、様々な農産物、ブリッツェンからの支援など、恵まれた地域資源を活用し、今後とも協議会との連携を図りながら、未来を拓くたくましい宮っ子の育成を行ってまいります。

【地域協議会の声】

「子どもたちのために何かできることはないか」と考え、看板や地域協議会のコーナーを工夫し充実させました。学校や地域の方々に積極的にご協力いただき大変有り難いです。

今後も地域協議会コーナーを活用したり、地域探検などの企画をしたりと、地域の良さや地域資源を、子どもたちを始め多くの方に紹介していきたいと思えます。

【いいね！】

交通安全の意識を高めることに加え、子どもたちに「自転車のまちに住んでいる意識を持ってほしい」という想いも詰まった活動でした。

どの活動も地域協議会の方が主軸となって、学校・地域・家庭の全体で子どもたちを守っていく姿勢が表れていました。



読み聞かせに挑戦しよう ～「絵本」でつながるコミュニケーション～

- まず初めに、城山西小学校では、学校が行う特色の1つに「会話科 ことばの時間」があり、表現力を磨いたり、他者とのコミュニケーションを楽しんだりすることを目的として、3年生から6年生までの各学年で行っています。今回は、地域と連携した3年生による「読み聞かせに挑戦しよう」を紹介します。
- この活動では、「自分たち（3年生）が、1年生に読み聞かせをする」をねらいとしていますが、児童が人前で読み聞かせをする経験は多くはありません。そこで、児童に読み聞かせのノウハウなどを伝えるのは、普段、全校児童に読み聞かせをしているボランティア「桜んBON（さくらんぼん）」の方々です。
- 伝えるときには、説明を聞くだけではなく、ボランティアの代表の方による「良い」読み聞かせや「良くない」読み聞かせの実演を見せ、気づいたことを全体で共有し、必要に応じて、進行役の方からの補足説明を加えながら行うことで、読み聞かせのポイントが具体的にイメージしやすいように工夫をしています。
- 読み聞かせの練習は、小グループに分かれて行いますが、班ごとにボランティアの方を割り振ることにより、一人一人の練習を十分に見ることができ、アドバイスもできるよう配慮されており、児童は、時間内集中して練習に取り組んでいました。
- この活動では、目標に向かって、級友だけでなく、ボランティアの方々とも共通の課題に取り組み、一緒に達成することにより、児童にとっては、ボランティアの方々との「交流」体験に加え、「感謝」の心が育まれる取り組みでもあったと感じました。



読み聞かせの実演を見た後での「いいところ」探しの様子。“聞いて学ぶ”だけでなく、“見て学ぶ（気づく）”も行い、効果的に学習中。



読み聞かせの練習の様子。小グループで行うので、うまくできないことがあっても、すぐにサポートでき、安心感たっぷり。本番に向けて、「がんばれ！城山西小3年生!!」

【学校の声】

地域協議会の読み聞かせボランティア「桜んBON」の皆様による会話科の指導は、本校3学年児童にとって表現力を育成する貴重な学習です。相手意識や目的意識を明確にして、児童一人一人が考え、工夫しながら読み聞かせを実践しています。

たくさんの方々と関わる機会を設定してくれた地域協議会の皆様、読み聞かせに関わってくださったボランティア「桜んBON」の皆様に感謝したいと思います。

【地域協議会の声】

この活動は、学校でできる「子どもと地域」、「親と地域」をつなぐコミュニケーションツールとして、大変有効であり、さらに、活動後、家庭での話題とすることで、「親子」のコミュニケーションにも役立ちます。「保護者—子ども—学校」が、一体となれるこの活動が継続できるよう、今後も、学校と協力していきたいと思えます。

【いいね!】

練習している児童への声かけを聞くと、必ず、良いところを“ほめる”言葉が聞こえます。児童への“ほめ”言葉は、活動への「意欲」や「安心感」、そして「自信」にもつながる大切なものであり、“ほめ”言葉であられるコミュニケーションは、とても素晴らしい交流ができていると感じます。



社会総ぐるみによる人づくりの「合言葉」

『育もう 地域の愛で 子どもの未来』

～大人が子どもの手本となり，みんなで人間力を高めます～

「魅力ある学校づくり地域協議会」

活動事例集 第7号

発行：令和4年2月 宇都宮市教育委員会事務局生涯学習課
〒320-8540 宇都宮市旭1丁目1番5号 宇都宮市役所
TEL 028-632-2679
FAX 028-632-2675
E-mail u4606@city.utsunomiya.tochigi.jp
